

令和4年6月16日（木曜日）

予算決算委員会厚生分科会

第3委員会室

出席議員

白井義一、谷川真由美、木村達夫、駒田かすみ、
八木隆次郎、石見和之、竹中隆一、杉本博昭、
江口千洋

【厚生委員会（環境局）の審査】

開会 13時13分

健康福祉局 13時13分

送付議案説明

・議案第49号 令和4年度姫路市一般会計補正予算（第3回）

質疑 13時16分

（質問）

新型コロナウイルスの感染状況は少し落ち着いているものの、検査件数は高止まりの状態が継続しているとのことであるが、姫路市内の検査能力はどれくらいなのか。

（答弁）

兵庫県に報告している1日当たりの検査可能件数は1,787件である。

（質問）

高齢者施設等でクラスターが発生した場合には、PCR検査ではなく抗原検査を行うのか。

（答弁）

PCR検査や抗原検査（定性・定量）は、それぞれにメリット、デメリットがあり、迅速な検査結果が求められる場合などの状況により使い分けをしている。

（質問）

抗原定性検査はすぐに結果が分かるが、ウイルス量が少ないと陰性になる場合があるので、クラスターの発生を防ぐには、抗原定量検査が必要との声もあるが、保健所としてはどのように考えているのか。

（答弁）

入所者が陽性となり、周囲の職員が全て濃厚接触者となった場合、施設運営に必要となる職員を確保するために抗原定性検査は有効である。

PCR検査の場合、特にオミクロン株においては、

治癒後2か月以上が経過しても陽性となる場合があり、クラスター発生時にPCR検査を実施しても、その陽性者が他人にうつす状態なのかが分からない。

抗原定量検査は、一定の精度があり、ウイルス量が多ければ、人にうつしやすいというような判断ができる一方、PCR検査よりも偽陽性が多い。

それぞれの検査にメリット、デメリットがあるので、何を目的にするかで検査方法を決めていきたいというのが保健所の立場である。

（要望）

状況に応じて適切な検査方法を選ぶということであるが、保健所としてしっかり指導してもらいたい。

（要望）

生活困窮者自立支援事業については、しっかりと広報し、必要な人がきちんと受給できるようにしてもらいたい。

健康福祉局終了 13時22分

【厚生委員会（市民局）の審査】

【厚生委員会意見とりまとめ】

意見取りまとめ 14時12分

・分科会長報告について

正副分科会長に一任することに決定。

意見取りまとめ終了 14時13分

閉会 14時13分